

イサザの分布と生息環境の調査

上野世司・酒井明久・上垣雅史・西森克浩・井戸本純一・遠藤 誠

1. 研究目的

地球温暖化がイサザ資源に及ぼす影響の評価のため、イサザの生息場所と深層の水温、溶存酸素濃度(DO)との関係の解明を目的として野外調査を行った。

2. 研究方法

2009年10月に、琵琶湖北湖に設定した17定点において、沖曳き網によりイサザを採集するとともに、水温の鉛直分布(ABT-1,アレック社)および底層D0(ウィンクラージャ化ナトリウム変法)を測定した。

3. 研究結果

湖底の水温は8.1~12.8の範囲にあった。また、湖底のD0の最低値は水深90.4m地点の3.0mg/L(定点A90)であった(図1)。調査した17地点のうち、15地点においてイサザが採集された(図2)。そのうち、3地点で死亡個体が認められた(A90:62個体、S90:10個体、I50:1個体)。

4. 研究成果

イサザへの温暖化の影響を評価する上での基礎資料となる。

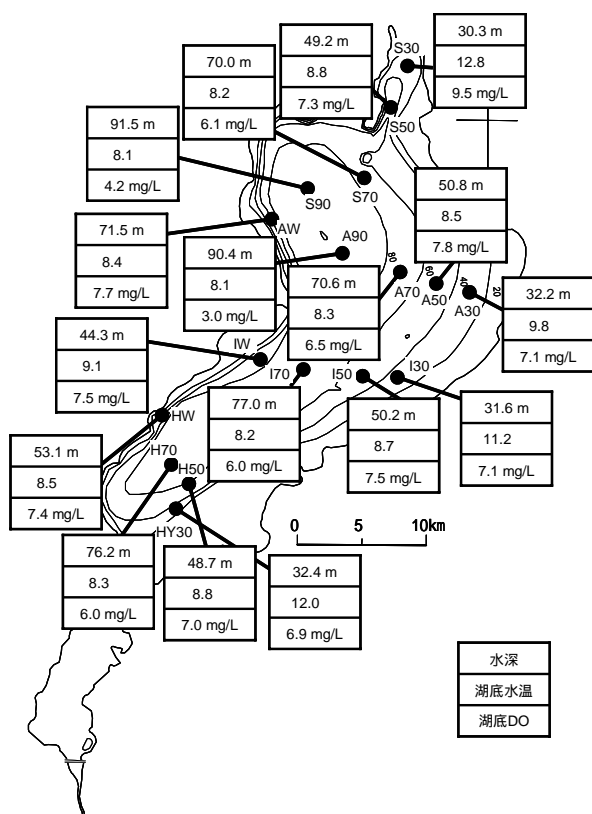


図1 琵琶湖北湖における調査地点と水深、深層の水温および溶存酸素量(2009年10月)。

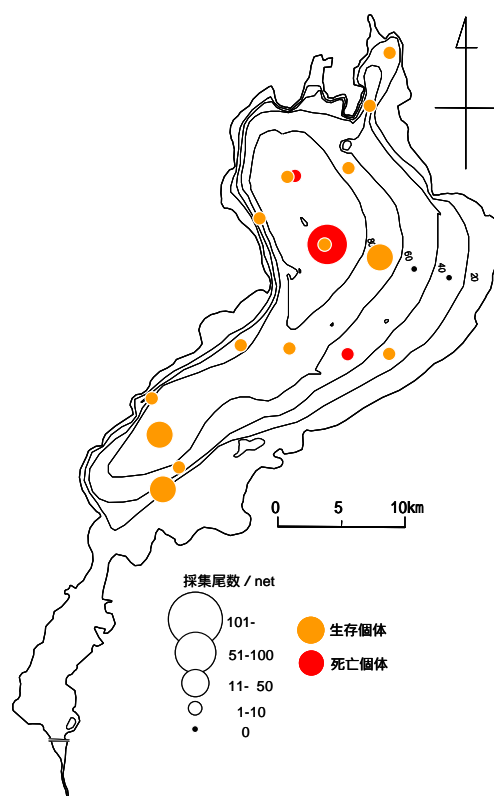


図2 琵琶湖北湖における沖曳き網調査によるイサザの水平分布(2009年10月)。